

自分の口に責任をもて！

2月16日の営業訓練で、田中営業助役は、1月31日に発生した車内暴力について「車内暴力があったら告訴して下さい。車内暴力があったら被害者を守ってやって下さい。今回、中乗り車掌は任意の警察の事情聴取を拒否しました。」と発言しました。車掌のクルー同士で被害者を守ることは当然ですし、今回の事象では中乗り車掌は被害に逢った車掌を守り、加害者への対応も冷静に行いました。その後も、警察からの事情聴取にも応じており何ら、問題があったわけではありません。事実として2月12日、吉兼営業科長同伴で「任意の参考人事情聴取」として名古屋の中村警察署に行きました。

しかし、今回の田中助役の発言は事実をねじ曲げて、当該中乗り車掌を、協力しない「悪者」として打ち出したのです。

(ちなみに今回、田中助役が事実を曲げて話をした当該中乗り車掌は東海労組合員です。)

今回、中乗り車掌は、車内暴力に関して会社から指示された時系列等報告書で報告を済ませていました。後日、会社は、中乗り車掌に対し「車内暴力」発生以降の事情説明や、被害に遭われた車掌の状況も一切聞かされないまま、「勤務を外しますから中村署に行ってください」という、「命令」だけを伝えてきました。JR東海会社の「命令と服従」そのものの姿勢を露わにしたのです。

中村警察署の事情聴取を終えて、吉兼営業科長は、中乗り車掌に対して今回の車内暴力にとった対応を大いに称賛しました。また、中乗り車掌から、会社が社員に協力を求める時は、もっと丁寧な対応が必要であると主張すると、吉兼科長も黙ってうなずいていました。

2月16日の当日、訓練に参加していた社員の中から、田中助役に対して「話しが違うのではないか。本人(当該中乗り車掌)はちゃんと被害者を守っている」と抗議がありました。

組合もこの田中助役の発言に対して抗議すると、翌日の訓練から担当した他の営業助役は、”車掌3名のクルーで協力した”事実を説明するようになりました。

分会も田中助役に対して発言の真意を問いました(2/22)。

田中助役 「(事情聴取)を拒否したとは言っていない」

分 会 「営業訓練では田中助役が、『事情聴取を拒否した』と発言したのを大勢の社員が聞いている」「訓練を受けていた社員からも抗議があったのではないか」「結果、協力して事情聴取に行っている。協力していることを知らないのか」

田中助役 「・・・知らない・・・」

分 会 「営業科長は本人の行動を称賛している。営業助役との見解が違う」「名古屋運輸所では(車内暴力)に関する掲示が出ている。他の職場で出ているのに、当該の大二運の職場で知らせないのはなぜか。車掌3人が協力して車内暴力に対応しましたぐらい出せるのではないのか」

田中助役 「俺は知らない。責任者に言ってくれ」

・・・と何ともしつとぼけた、自分が発した言葉にも「知らぬ・存ぜぬ」で貫き通そうという姿勢で、職責の微塵もない対応でした。

★公の訓練の場で、事実をねじ曲げて発言した田中助役の責任は重大だ！

★知らぬ・存ぜぬでは済まされない！

★事実の訂正並びに即刻、当該中乗り車掌に謝罪しろ！！